

作者紹介



山鹿灯籠師、徳永正弘氏。昭和3年8月14日、山鹿市熊入町生まれ。幼少期からものづくりが得意で、学校の先生や友人から飛行機や戦艦の製作を頼まれていた程の腕前だったという。

昭和27年に警察予備隊(現在の自衛隊)に入隊し、自動車整備を担当。その後、たんすや机などをつくる指物大工店で働いた経歴もある。

昭和40年代には、兵庫県芦屋市にある建築模型会社 ヤマネ工芸から技術指導を委託され、約10年間山鹿灯籠製作と並行しながら、そこで山鹿灯籠では製作しないようなビルや競技場などの建築模型の製作も行っていた。徳永先生の趣味は、プラモデル作り。特に飛行機のプラモデルは数えきれない程作っていたといい、灯籠製作時でも飛行機の飛ぶ音が聞こえると、カメラを持って外に飛び出し、夢中でシャッターをきる程飛行機が大好きだったという。いつも口癖のように「プラモデルは順番通りに作らないと精確に出来上がらない。あとで付けようと思っても付けられない部品も多く、山鹿灯籠と似ていて勉強になる」と言っていたそう。

山鹿灯籠の中で最も有名な、金灯籠。現在の金灯籠を、誰が作っても同一の形で、見栄えよく、女性の頭に乘せてちょうど良いサイズに作れるよう型を製作したのは徳永先生である。

略歴

山鹿灯籠師 徳永正弘

- 昭和 3年 熊本県山鹿市生まれ。
- 昭和32年 山鹿灯籠師 松本清記先生に入門。
- 昭和33年 松本先生の死去により独立。
- 昭和40年 台湾・蒋介石総統に贈る「法隆寺五重塔」を製作。
- 昭和43年 日本・佐藤首相から米国・ジョンソン大統領に贈られた「金閣寺」の技術指導および製作に携わる。
- 昭和49年 山鹿市市営温泉「さくら湯」の灯籠製作。
- 平成 4年 山鹿灯籠製作後継者の育成を開始。
- 平成 5年 (一財)地域伝統芸能活用センターより、「第1回地域伝統芸能大賞」受賞。
- 平成 7年 山鹿灯籠師組合長 就任。(平成11年まで)
- 平成12年 熊本県より製作委託を受け、「古今伝授之間」を宮内庁に献上。
(一財)伝統的工芸品産業振興協会より「小規模産地功労者」受賞。
「平成13年度優秀技能者 熊本県知事表彰」受賞。
- 平成24年 山鹿灯籠振興会 設立、会長就任。
- 平成25年 国指定伝統的工芸品に山鹿灯籠が指定を受ける。
- 平成27年 7月没。享年86歳。

作品介绍



さくら湯（昭和49年製作、所蔵：山鹿市）

山鹿市にある山鹿温泉の元湯。

約380年前の資料にもその姿を残すさくら湯は、昭和48年に都市再開発事業によって取り壊された。この作品はその取り壊し前に、当時の市長からの依頼を受けて製作された作品である。

徳永氏はさくら湯製作にあたり、脱衣所から浴槽にいたる温泉内部も全て調べ上げたうえに、さくら湯の屋根に自ら登り瓦の数までも数えたという。本作品は「山鹿市民の宝」を後世に残すべく、当時のさくら湯の姿を忠実に再現した作品となっている。

現在のさくら湯が建設される平成24年、当時の設計図などがなかったため、徳永氏のこの作品をもとに再建設が行われた。この作品がなければ、現在のさくら湯再建は不可能だったともいえる。この作品の一番の特徴は、屋根瓦。この瓦の作り方は徳永氏の考案によるものである。製作効率と美しさを重視し、横一列に規則正しく瓦を作れるように専用の型を作成した。

徳永氏は道具づくりにもたけており、部品を作るうえでもっとも効率的な道具を多数生み出している。弟子にも常日頃、作品を作るうえで道具づくりがいかに大切かを教えていたという。

また、瓦の厚みを再現するため7枚の紙を重ねリアリティを演出したり、外からは死角となって全く見えない内部も驚くほど丁寧に作られている。徳永氏の技全てを堪能できる作品だ。